

政権交代の機運高まる中南米／対中けん制を強める豪州

【目次】

I. 中南米：左派勢力が国民の不満の受け皿となって勢いを増す	p. 1
II. 大洋州：中国のCPTPP加盟申請が豪中関係の新たな試金石に	p. 4

I. 中南米：左派勢力が国民の不満の受け皿となって勢いを増す

①域内政治：

- 新型コロナウイルス感染対策として、多くの国が長期間にわたり厳しい経済活動制限を続けてきた。その結果、ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルーでは現政権への不満が募り、政権交代の機運が高まっている。濃淡の差はあるものの左派勢力が不満の受け皿となって勢いを増している国が多く、政府の市場への介入強化や、ばらまき財政への政策転換が懸念されている。
- ペルーでは、6月の大統領決選投票で、富の再分配を公約に掲げた急進左派のカスティージョ氏が、市場経済を重視するフジモリ氏を僅差で破り、左派政権が誕生した。新政権は、資源価格の上昇で潤う鉱業部門への増税や、自由競争を謳った現行憲法の改正を掲げている。ただ、議会で少数与党のため、鉱業増税など一部の政策では野党に歩み寄るなど、現実路線を取りつつある。
- チリでは、11月に大統領選挙が実施される。与党会派（Chile Podemos Mas：中道右派）からは前国立銀行総裁のシチェル氏が出馬表明しているが、現政権は不支持率71%と不人気根強く、野党会派（Apruebo Dignidad：左派）のボリッチ下院議員が選挙戦を有利に進めている。同氏は、法人税引き上げを含む税制改革や、国民皆保険の導入など左派色の強い公約を掲げている。
- アルゼンチンでは、9月の議会選挙予備選で与党連合が大敗を喫した。フェルナンデス大統領の指導力は弱く、黒幕であるクリスティーナ副大統領（元大統領）は、予備選後の内閣改造で重要ポストに急進的な人物を送り込み挽回を図る。クリスティーナ派の勢力拡大により財政規律は失われ、11月の本選に向けて財政度外視のばらまきが進められる可能性が高い。
- ブラジルでは、ボルソナーロ大統領の支持率は7月の世論調査で過去最低の24%を記録した。経済を優先して感染拡大を招いたことへの批判と、ワクチン調達を巡る汚職疑惑が背景にある。2022年の選挙で再選を目指す大統領は、貧困家庭向け現金給付策の拡充等を通じて支持回復を目指す。効果は薄いだらう。世論調査では、資源ブームを追い風に経済成長を実現したルーラ元大統領の再登板を期待する声が4割強に達し、他候補を上回った。

②経済：

<域内経済>

- 世銀によると、20年の中南米の実質 GDP 成長率は▲6.5%と、他の新興地域と比べて大きく落ち込んだが、21年は反動で5.1%成長となる見通し。経済活動制限に伴い、20年の中南米の貧困層は、人口比27%（同3.2ポイント増）になった。世銀は、労働市場への影響が長期化するため正規雇用者数は23年までにパンデミック前に比較し4%減少し、雇用契約や社会保障制度によって保護されないインフォーマル労働者が増加すると見通す。
- ブラジルでは、ワクチン接種が進んだことを理由に、政府が8月、1年4カ月続いた経済活動制限を解除した。中銀は21年の実質 GDP 成長率を4.6%と見通す。だが、高い失業率や、高水準で推移するインフレ率により個人消費の減速が懸念される他、22年の大統領選を控え、投資は様子見となる等、景気回復の下振れ要因は多い。
- メキシコ経済は回復に頭打ちの兆しがある。政府はコロナ禍でも緊縮財政に徹し、給付金支給などの経済刺激策を実施しなかった。このため財政が安定している一方、GDPの約6割を占める民間消費の回復が遅く、失業率も高止まりしている。半導体不足などの影響で8月の自動車生産・輸出台数がコロナ禍の前年同月比でも減少するなど、主力の自動車産業も伸び悩んでいる。

<環境ビジネスの加速>

- 中南米の多くの国は、水力発電を主要電力源としているが（図表1）、水力発電所設置に適した環境は限られ、今後大幅な設置増は見込まれない。ブラジルやチリなど各国では少雨による電力ひっ迫が深刻化しており、拡大する電力需要に対応する上で電力源の多角化が喫緊の課題だ。日照時間が長いメキシコでは、政府主導により域内最大の太陽光発電所建設が進み、チリでも、海外企業による同分野への投資が活発化している。またコロンビアやアルゼンチン南部は風況に恵まれており、陸上風力発電に注目が集まる。
- 中南米主要国は、豊富な再エネ資源を背景にグリーン水素開発に注力しており、チリは20年11月、中南米で初めて国家水素戦略を発表した。まず国内で乗用車や鉱物運搬車での水素利用を進め、世界的な水素需要が見込まれる50年には、グリーン水素が銅に次ぐ主要輸出産品に成長すると試算している。チリではグリーン水素だけでなく、水素化合物のアンモニアや、水素に二酸化炭素を合成したE燃料の生産を目指す大型投資案件が相次いでいる。

③外交：

- 中南米では、米国の影響力の低下と中国の存在感の高まりが顕著だ。米国は4月、国内課題を優先して米州首脳会談を延期するなど、中南米への関与を

低下させており、結果域内での影響力を失いつつある。一方、いち早くコロナ感染を抑え込んだ中国は、中南米からの輸入を拡大してコロナ禍の各国経済を支え、さらにワクチンや医療援助を提供することで存在感を強めている。

- <米墨関係>メキシコの対米関係は、移民、安全保障、通商など閣僚級会合を重ね、トランプ政権時と比べ安定するが、各論では足並みがそろわない。喫緊の課題は、メキシコを経由して米国を目指す中米移民だ。米墨国境付近での拘束者数は8月、コロナ前の19年同月比3倍に増加、墨側は移民と警察の衝突や治安悪化への対応に追われる。墨政府は6月、米国と中米での雇用創出策で合意して早期解決を目指す。米側の対応は遅れている。
- <伯 EU 関係>南米南部共同市場（メルコスール）は、19年にEUと自由貿易協定（FTA）の原則合意に至ったが、ドイツ、フランスは批准の条件に、アマゾン森林破壊問題でのブラジル政府の早急な対応を課している。環境政策の優先順位が低いボルソナロ政権は、省庁横断的な対策を取るための「アマゾン評議会」を20年12月に創設するにとどまり、EUが批准に動く材料とはなっていない。
- <貿易面で強まる中国の存在>21年上半期の対中貿易は、コロナ前の19年同期比でペルー以外の主要国全てで増えた（図表2）。輸出額は資源価格の上昇で増加する一方、輸入額もパソコン等電子機器等の品目で増加した。中南米では近年、ブラジルの5G入札やチリの海底ケーブル敷設など、中国企業の投資拡大による経済安全保障リスクを懸念する声も挙がるが、貿易面では中国との繋がりは強まっている。
- <不調和が目立つメルコスール>関税同盟であるメルコスールは、ブラジル、ウルグアイが域外国とのFTA推進を主張する一方、アルゼンチンは国内産業保護を重視して立場が一致しない。ウルグアイは9月に、メルコスール一体としてのFTA推進を諦め、抜け駆け的に中国との二国間FTA交渉準備を発表した。これを機にメルコスールが、現在の関税同盟からASEANのような自由貿易地域に形態を変えれば、各国が日本など域外国とのFTAを個別に進める可能性もある。
- <中南米とCPTPP>環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（CPTPP）について、中南米ではメキシコ、ペルー、チリの3カ国が参加するが、チリのみ未批准である。野党過半数の上院が、内政課題優先を理由に批准を先延ばしにしており、大統領選前の批准は難しい。ただ、チリはCPTPP参加国全てとの間に既存のFTAがあるため、批准を急いでいない。中国のCPTPP加盟申請について、メキシコはUSMCAとの兼ね合いから慎重姿勢だが、ペルーとチリは既に中国とFTAを結んでおり目立った反応はない。

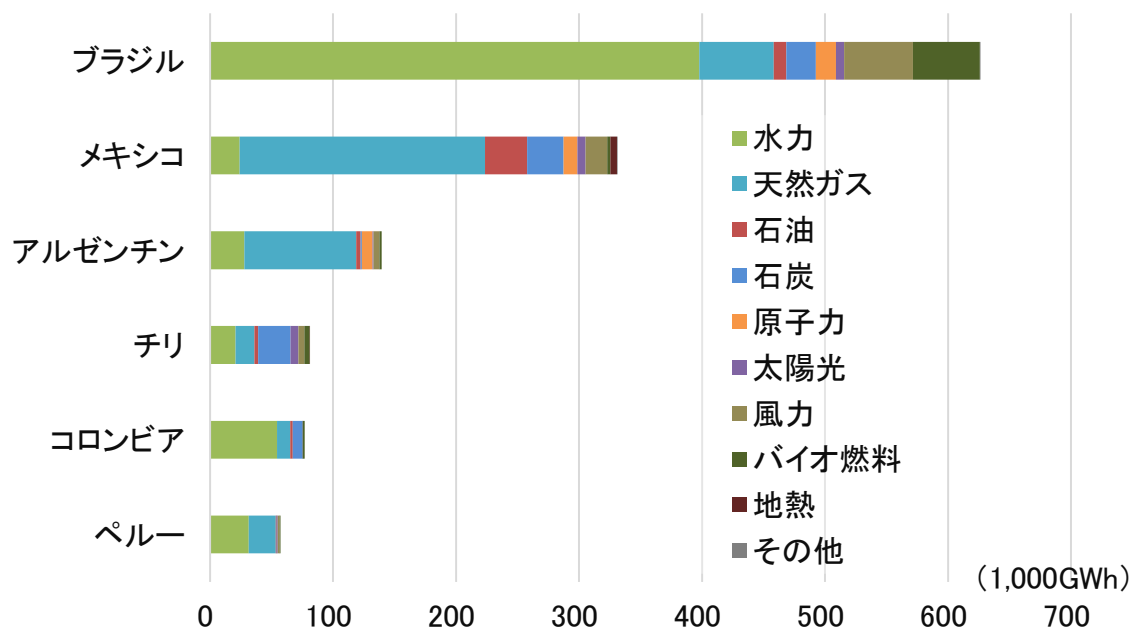
II. 大洋州：中国のCPTPP加盟申請が豪中関係の新たな試金石に

- モリソン首相が2020年4月、中国の新型コロナ対応について独立調査を求め、中国が強く反発して以降、豪中関係は悪化の一途をたどっている（**図表3**）。関係改善の兆しがまったく見えない中、豪州は21年9月、米英とともにインド太平洋地域における新たな安全保障枠組み「AUKUS」の創設を発表した。名指しは避けたが、影響力を増す中国が念頭にあることは明らかで、豪州は米英から原子力潜水艦導入の支援を受け、対中抑止力の強化を図る。
- 豪州は過去最悪と評される二国間関係の打開に向け、中国に対話を求めている。しかし、中国は5月、豪中戦略経済対話の無期限停止を発表するなど、一貫して対話を拒否している。中国は豪州が先に関係改善への意思を態度で示すよう求めるが、豪州も対話のための譲歩はしない方針で、歩み寄りの糸口は見つからない。米中対立が続く中、AUKUSや日米豪印の連携枠組み、クアッドの一角を占める豪州と中国の冷たい関係は固定化しつつある。
- 中国は9月、CPTPPへの加盟を正式に申請したと発表した。CPTPPへの新規加盟に際しては全ての現加盟国の承認が必要で、現加盟国である豪州は中国の加盟についての実質的な拒否権を有する。テハン貿易・観光・投資大臣は、中国が豪州に課す経済制裁措置について閣僚級対話を持たない限り、加盟交渉開始に同意できないことを示唆し、中国をけん制している。ほぼ同時期にCPTPPに加盟申請した台湾への対応とともに、中国の加盟をめぐる豪州の今後の対応は、豪中関係に大きな影響を与えるだろう。

<中国への経済依存度の引き下げに注力>

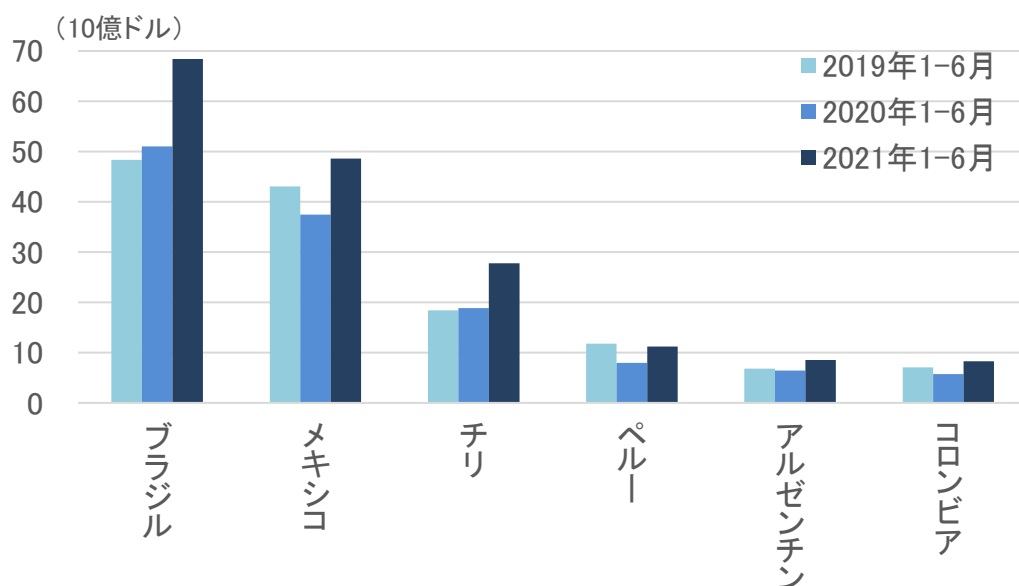
- 中国は20年5月以降、石炭や銅鉱石・精鉱、牛肉、大麦、ワイン、木材など幅広い豪州製品に対し実質的な制裁措置を課している。対象品目の対中輸出は大幅に減少したが、価格が高騰した鉄鉱石が伸びた結果、豪州の対中輸出総額は高水準で推移している。鉄鉱石については豪州産の代替供給元の開拓は難しく、中国が輸入制限を課す可能性は低いとの見方が強い。
- 中国への経済依存度の引き下げは急務である。制裁品目を中心に中国以外の輸出市場の開拓に注力する他、市場としての魅力を高める東南アジア、特にベトナムと経済関係を強化している。またインドとは20年6月、両国関係の包括的戦略的パートナーシップへの引き上げで合意。21年9月には外務・防衛閣僚による2プラス2を初開催、安全保障面での連携強化を確認。10月には年内の暫定合意を視野に、FTA交渉を約6年ぶりに再開した。
- 豪州の中国に対する世論は20年以降、急速に悪化している。豪州の有力調査機関の調査では21年、中国を「安全保障上の脅威」とする回答が「経済パートナー」を上回った（**図表4**）。産業界にも中国は重要な貿易パートナーで関係改善は必要だとの声はあるが、中国への安易な妥協は求めている。

(図表 1) 主要国電力源別発電量 (2019 年)



(出所) 国際エネルギー機関 (IEA) データから三井物産戦略研究所作成

(図表 2) 主要国の対中貿易額推移



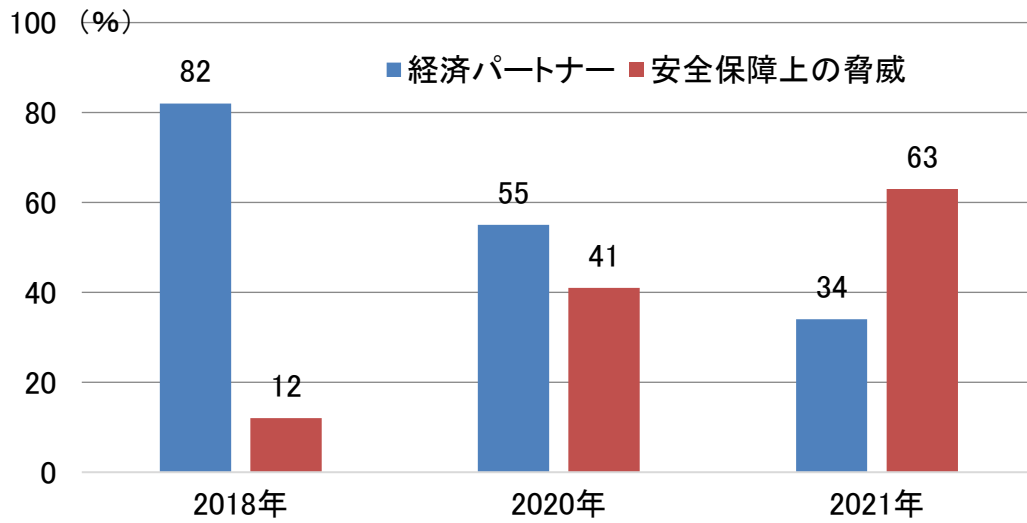
(出所) 各国関連省庁、CEIC のデータから三井物産戦略研究所作成

(図表 3) 豪中関係における 2020 年以降の主要な出来事

年	月	国	内容
2020年	4月	豪州	新型コロナについての独立調査を主張
	5月	中国	商品表示、検疫等の技術的な問題を理由に、一部の豪州産食肉を輸入停止措置
		中国	豪産大麦に対し、80%超の追加関税賦課
	7月	豪州	豪州内の香港市民の永住権申請を可能に
		豪州	国連に対し、中国の南シナ海の領有権を否定する書簡を送付
	8月	豪州	キリンホールディングスによる豪州乳製品事業の中国の蒙牛乳業への売却が白紙化
	9月	中国	豪産小麦への輸入検疫を強化
	10月	中国	国内紡績企業に対し豪産綿花の利用中止を指示。豪産木材の輸入停止措置
	11月	中国	外交部の報道局長が、豪軍兵士が子供にナイフを突きつける捏造画像をツイッターに投稿
		中国	在豪中国大使館は豪メディアに対し、豪州側の対応や認識に問題があるとする14項目を伝達
		中国	豪産ロブスターに対する検疫を強化、実質的に輸入停止
		中国	豪産ワインに最大200%超の反ダンピング関税賦課を仮決定
		中国	豪産石炭の陸揚げを停止
	12月	豪州	中国による豪産大麦への追加関税を不当として、WTOに提訴
		豪州	国家安全保障の観点から海外からの投資を厳格に審査する外資買収法が成立
豪州		地方政府が外国と締結した協定に対し、国益に反すると判断した場合、中央政府が破棄可能とする法律が成立	
2021年	3月	豪州	日米豪印のクアッド初の首脳会談(オンライン形式)
		豪州	NZとともに新疆ウイグル自治区での人権侵害を理由とした欧米の制裁を歓迎
		中国	豪産ワインに対し、反ダンピング関税賦課を正式に決定
	4月	豪州	ダットン国防相、「中国と台湾を巡る衝突は軽視されるべきではない」と発言
		豪州	中央政府はビクトリア州が中国と締結していた「一帯一路」協定を、国益に反するとして破棄
	5月	中国	戦略経済対話の無期限停止を発表
		中国	当局が小規模輸入業者に対し、豪州産LNGの購入を控えるよう口頭指示を出したとの報道
	6月	豪州	中国による豪産ワインへの反ダンピング関税賦課を不当として、WTOに提訴
		中国	豪州が中国産鉄道用車輪部品など3品目に課す追加関税を不当として、WTOに提訴
	9月	豪州	米英とのAUKUS創設を発表
中国		CPTPP加盟の正式申請を発表	
豪州		クアッド首脳会談に参加(初の対面形式)	

(出所) 政府発表、各種報道から三井物産戦略研究所作成

(図表 4) 豪州の対中観



(注) 2019年は同質問なし

(出所) Lowy Institute Poll から三井物産戦略研究所作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容は無断転載・複製を禁じます。当レポートは信頼できると思われる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び三井物産グループの統一した見解を示すものではありません。また、当レポートのご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社及び三井物産グループは一切責任を負いません。レポートに掲載された内容は予告なしに変更することがあります。